

# いもばたけ通信

編集・発行

西九州大学

心理カウンセリング学科

非常勤講師 本山 修

## 自分の考えや思いをことばにすることは楽しいこと!

「論」とは、ある事柄について筋道を立てて判断を下したり、物事に対する意見を述べたりすること。また、その判断や意見。(三省堂新明解国語辞典)とあります。

### 学びのスーパーサイアム になりたい!

今日の講義でも言われたように、“頭の良い人”と“悪い人”というのは、集中力と注意力によってだいぶ変わるものだという事を知った。

やはり、物事を暗記するには、イメージと覚えたいという意識が大切だということに改めて思った。今まで、意識が足りなかったのだらうと感じた。



### 集中力

今日は2回目の授業だった。今回は本格的な授業だった。集中力が大事なことが分かった。今回難しい言葉があつて集中して授業が受けられなかったことを反省しています。

私は暗記するのが苦手だけど、丸暗記も必要なので、これから暗記力、集中力を身につけて、「やる気の脳」作れたらいいと思います。

### 講義を受けての気づき

今日の講義のような「勉強

の仕方・やり方」というものを教えてくれる先生と呼ばれる人は近くにほとんどいなかったの、とても勉強になりました。

暗記が苦手な理由は、復習をあまりしないことにも原因があります。その復習も維

持リハーサル

(単なる繰り返し)

がほとんど

だったので、

これから復習する

時はなるべく精

緻化リハーサル

(語呂合わせ)

を心掛けていきたいです。

講義内容が、心理学概論で習ったことあるものも多かったの、復習になってとても良かったです。今回も楽しかったです。

### 感想

今日は2回目で大変だったけど、楽しかったです。この小論文で、先生からの返事が返って来たことが、とてもうれしかったです。

高校の時は、レポートを提出しても、先生の印鑑しかなくて、本当に見たかどうか疑問に思っていたけど、こうやって先生から返事があると、読んでくれたと分かるので本当にうれしかったです。

後、先生が、バドミントンをやっているのを聞いて、自分もバドミントンをやっているの、先生と試合がやってみたいです。

### 二回目

二回目の講義を受けて、初回に行った漢字の練習シートで、前は読めなかった漢字が読めるようになっていたので少し嬉しかった。また、知らなかった知識がついてきて楽しいので、補習にひっかかって良かったかもしれない。

### イメージが大切

まず、前回の小論文というか感想にコメントが書いてあってびっくりしました。今日の授業で、イメージすることが大切なんだと思えました。

例えば、“あんな女の子になりたい”とか、イメージをよくします。最初は頑張るけど、段々あきてしまっていました。でも、そうならないようになりたいと思いました。

## 第2回

今日は、まず前回の漢字の復習をしました。何個か覚えてなかったけど、これでもうきつと覚えたはず。今回復習を何回かすると完ぺきに覚えるということがわかりました。やる気が出てきました。やる気がなくなったら、今回の授業を思い出そうと思います。

## 忘却曲線

エビングハウスの忘却曲線は、高校の生物の授業の時に小テストをする先生が、ちらりとおっしゃっていた。この忘却曲線のことを体感したので、学習もこれを意識して少しずつ行いたい。

## 第2回

今日は遅れてごめんなさい。今日は漢字を一つ覚えしました。「長閑」あと、みんなが苦手な所などが知れて、一緒にがんばろうと思いました。

## 二回目の授業

今回の授業も、とても楽しかったです。しかし、途中で寝てしまいました。すみません。

後半、目が覚めて先生の話の話を聞くとやっぱり楽しい授業と実感しました。本当はもっともっと話聞きたかったです。来週はちゃんと起きます。がんばります。

## 2回目の授業

今日はまた新しく漢字を習いました。でも、前回やった分を少し忘れていたので、前回の分と今回の分をゆっくり復習していきたいです。

## 芋蔓草(いもづるぐさ)

2回目の授業。朝早いのに、前回出席した学生がみな出席だったので、安心して嬉しく思いました。前回の小論文に、「楽しくなかったら来ない」という厳しい意見もあったので、ほっとしました。

ただ、同じ2名の欠席が連続していたので、ちょっと気になります。体調を崩しているのではないでしょうね。

さて、最後の余白を埋めるこの欄を「芋蔓草」と名付けました。文集のタイトルが「いもばたけ」なので、“芋づる”に「草子」(随筆や物語・日記を表す)の“草”をつけたものです。兼好法師の「徒然草」(つれづれぐさ)は有名ですね。

ちなみに、アンネの日記で

は、キティ様と友人の名前で日記に語りかけています。

自分の心に浮かんで消えていく思いや感情の移り変わりを言葉にして綴ることは、本当は楽しいことだと思うのですが、国語教育のどこかに「作文嫌い」を増やす負のパワーがあるようです。

第1回目の授業アンケートの結果、国語の学習が“どちらかと言えば好きだ”が5名、“あまり好きじゃない”、“まったく好きじゃない”の合計が5名でした。

苦手だと思う第1位は漢文(7)、次いで古文(6)、作文(6)となりました。次いで、漢字の書き取り(5)、語句の意味(5)、文章の読み取り(5)が続きます。

リメディアルの授業では、特に、作文力を身につけることを第一に毎回の小論文を、そして、自分達の作品を読み合うことで、漢字や語彙を増やそうという戦略(ストラテジー)を立てています。

授業に取り組む学生たちが、1行でも2行でも、自分の素直な心の動きをことばにして文字で残す。その価値を見出すことができればと願っています。

最初の『学びのスーパーサイア人になりたい!』というタイトルは印象的です。タイトルを工夫することは、文章をまとめる力を高める効果的な方法なんですよ。

